

9 バケットボールⅡ（ディスタンスゲーム）

I 競技の特性

バケットボールⅠをアレンジしたものである。バケット（網状のラケット）を使い、投げられたボールを打ち返し、飛距離を競い合って楽しむ。ボールの軌道やスピードにタイミングを合わせてバケットをスウィングするのが楽しい。バケットを両手で持って頭上から振り下ろすので、車椅子に乗っている児童生徒は脚にバケットを当てないように配慮する必要がある。

II 施設・用具

1.施設

屋内外に問わずに行えるが、プラスチック性の軽いボールを使用する時は、風の影響を受けない屋内が望ましい。

2.用具

(1)バケット

鉄のフレームにビニール性のガットを張ったもの。

(2)ボール

プラスチック製ボール（スポンジ製ボール、硬式テニスボール、紅白玉なども可）

(3)三角コーン

(4)得点板

III 競技の方法

1.人数（チームの編成等）

人数は問わない。団体戦、個人選どちらでも行える。

2.競技の進め方

(1)紅白チームの代表がじゃんけんを行い、先攻・後攻いずれかを選択する。

(2)各チームはゲーム開始前にボールを打つ順番を決める。

(3)1ゲームにつき一人10球ずつ、投げられたボールを打ち返し飛距離を競う。審判

はボールが落ちたゾーンを確認し、1球ずつ得点をカウントする。

- (4)先攻の一番が終わったことを審判が告げ後攻の一番が打つ。紅白チームが交互に打ち、全員の試技が終わったところで1ゲーム終了となる。2ゲーム行う。

3.得点

- (1)ファーストゾーンにボールが届くと1点。
(2)セカンドゾーンにボールが届くと2点。
(3)サードゾーンにボールが届くと3点。
(4)フォースゾーンにボールが届くと5点。
※三角コーンとフロアのラインで各ゾーンが区分けされている。

4.勝敗の決定

2ゲーム行い、紅白各チームの合計得点で勝敗を決定する。

